



平成 28 年 6 月 3 日
九州地方整備局
15 時 00 分

【平成 28 年熊本地震対応】

地震後の立野ダムに関わる区域の状況について

【第 2 報】

《現地の復旧状況について》

- 河川内にアプローチするための道路の復旧を5月27日に完了し、この道路も活用しつつ、詳細な現地調査を実施しているところです。
- ダム建設予定地及びその周辺において、引き続き詳細な現地調査を専門家と行うとともに、埋まっている工事車両等を撤去するため、土砂の撤去や整地を実施していきます。

《第 1 報（5 月 14 日）以降に分かったこと》

- ダム本体の建設予定地付近の河川内における詳細な現地確認により、概略的な観察による第 1 報と同様、表層のはがれ落ち以外に大規模な崩落は発生していないことを確認しました。
- 第 1 報でも、ダム本体の建設予定地から約 500m 離れた位置で、既知の北向山断層に沿ったダム本体に向かわない地表亀裂を確認していましたが、ダム周辺における詳細な現地踏査で、当該地表亀裂は線状に分布し、ダム本体には向かわないものであることを確認しました。

《参考：第 1 報の概要》

- ダム貯水池河岸となるところでは、表層の弱い部分を中心に崩落が見受けられますが、ダム建設の支障となるような情報はありません。
- ダム本体の建設予定地直下の地盤を横断するような活断層は確認されていません。

【問い合わせ先】国土交通省 九州地方整備局 河川部

河川計画課長 坂井 佑介

電話：092-471-6331（代表）

090-2511-9675（携帯）

- 5月27日に、河川内にアプローチするための道路の復旧を完了し、この道路も活用しつつ、詳細な現地調査を実施しているところです。※
- ダム建設予定地及びその周辺において、引き続き詳細な調査を専門家と行うとともに、埋まっている工事車両等を撤去するため、土砂の撤去や整地を実施していきます。



アプローチ道路の復旧状況
(5月27日)

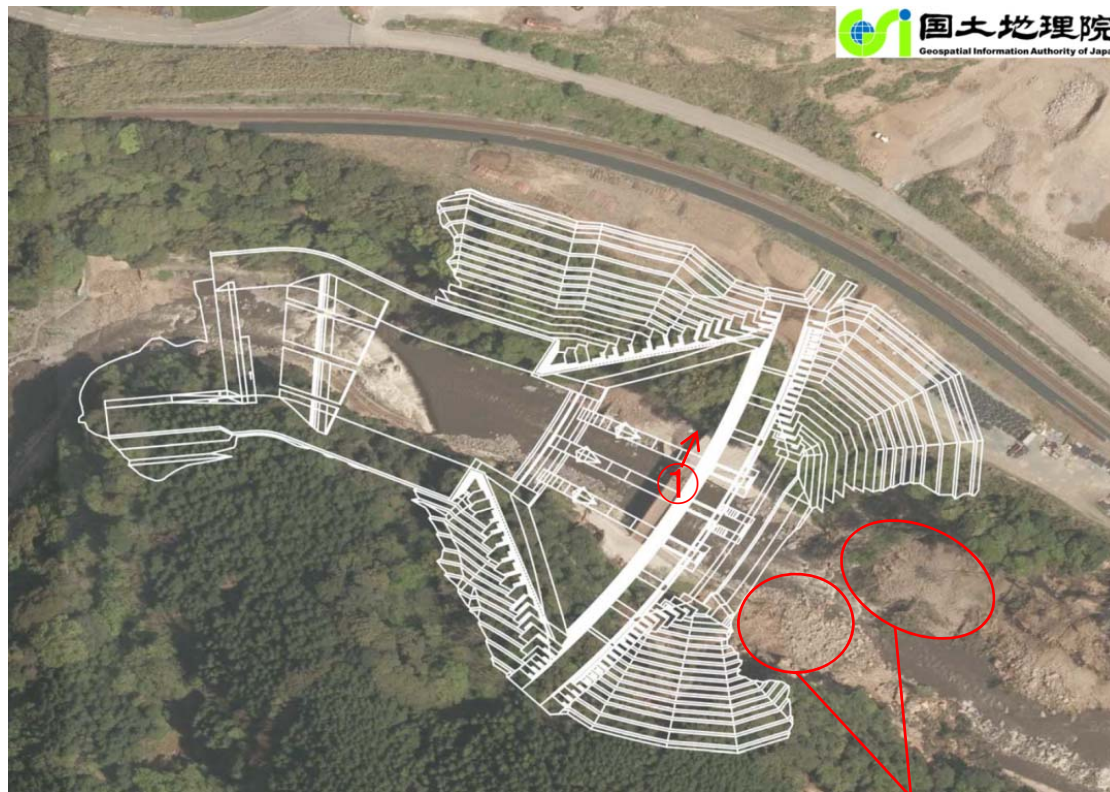


土砂の撤去・整地状況
(5月27日)

※安全確保上、一般の皆様の入場は禁止しています。

立野ダム本体建設予定地及びその周辺の状況について

- ダム本体建設予定地では、表層の土砂や石のはがれ落ちはありましたが大規模な崩落は発生していません。
- ダム本体工事の際には、両岸の表層の土砂等はもちろん、その下の岩盤の弱い部分まで取り除いた上で、堅い岩盤に直接ダム本体を築くこととしているため、問題となるものではありません。
- ダム本体建設予定地の周辺では、両岸の河床道路の一部が土砂に埋没したり、渡河橋が一部被災したりしていますが、大きな被害はありません。

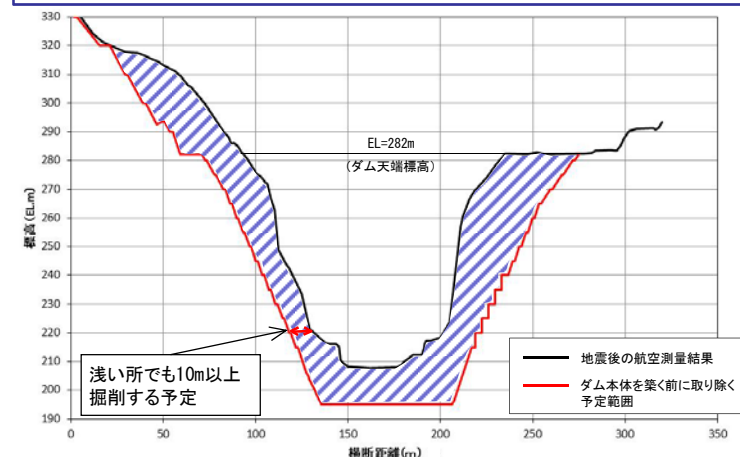


河床道路の一部が埋没

本図は、地震発生後に国土地理院が撮影した空中写真に、立野ダム計画平面図イメージを加筆したものです。



写真① ダム本体建設予定地の様子（5月24日撮影）



写真①付近の横断面図

立野ダム周辺における活断層の調査について

○地震発生後の現地調査で、地表の亀裂を確認した結果、ダム本体建設予定地から約500m離れた位置で、既知の北向山断層に沿って、地表亀裂がダム本体には向かわず、線状に分布していることを確認しました。



従来の調査結果(国交省)



※ 25については、過去の文献において記載があるものの、これまでの調査の結果、断層による変位地形は認められず、断層露頭も認められていません。

空中写真 (H28. 4. 16撮影)

- 地震発生後の現地調査で、ダム本体建設予定地直下の地盤を横断するような活断層は確認されていません。
- 研究機関による調査の結果として、今回活動した活断層は既知の活断層の位置にほぼ一致しているとの報告がされています。

地震調査研究推進本部地震調査委員会

「熊本地震の評価」※1

- 布田川断層帯の地表変位も、ほぼ従来指摘されていた活断層に沿って出現



※1 地震調査研究推進本部地震調査委員会「熊本地震の評価（5/13）」より抜粋。国交省にて立野ダム等の位置を加筆。

土木学会地震工学委員会

「平成28年（2016年）熊本地震 地震被害調査結果速報会」※2

- 地震断層位置は既知の活断層（推定）位置にほぼ一致

※2 土木学会地震工学委員会「平成28年（2016年）熊本地震 地震被害調査結果速報会（4/27）」より抜粋。